

# 第1部

## まちづくりにおける 合意形成

### 第1章

身近なまちづくりと合意形成

### 第2章

合意形成を目指して

**‘まちづくり’という言葉を目にされたことのある人は多いでしょう。まちづくりに、まちの一角の花植え活動やパトロール活動などの小さなものから、道路や清掃工場などの公共施設の整備という大きいものまで、様々なものがあります。**

**いずれにしても、その地域での生活をより魅力的なものとするために活動を行うことがまちづくりです。そして、地域の住民の思いが反映されたまちづくりであってこそ、魅力や愛着を感じるまちが形成されることでしょう。その地域の住民の思いを反映させるためには、合意形成が求められます。**

**第1部では、このようなまちづくりのうち、市民の皆さんが主役となって行う身近なまちづくりを対象とし、まちづくり活動の基本的な進め方を示します。そして、その過程において、円滑に合意形成を図ることができるよう、合意形成のあり方や取り組み方について提案します。**

# 第1章

## 身近なまちづくりと合意形成

### 第1節 まちづくりにおける合意形成の意義

- |                   |     |
|-------------------|-----|
| (1)身近なまちづくり       | …14 |
| (2)合意形成ってどんなこと？   | …15 |
| (3)どうして合意形成が必要なの？ | …16 |

### 第2節 まちづくりの進め方

- |                 |     |
|-----------------|-----|
| (1)まちづくり活動の特徴   | …18 |
| (2)まちづくり活動のステップ | …22 |
| (3)合意形成が必要なとき   | …28 |

## 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

# 第1節

## まちづくりにおける合意形成の意義

身近なまちづくりにおける合意形成とはどのようなことなのでしょう？そして、どうして合意形成が必要なのでしょう？

## 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

## (1) 身近なまちづくり

### ポイント

まちづくりは、身近な‘まちへの思い’をきっかけに始まります。そして、その思いを実現するために活動に取り組み始めます。

住民の皆さんは日常生活において「〇〇なまちだと良いな」、「まちの〇〇を大切にしたいな」というような思いを抱くことがあるでしょう。この身近な‘まちへの思い’こそが‘まちづくり’のきっかけとなり、まちづくりのテーマとなるのです。そのテーマを実現し、愛着や魅力を感じるまちへと育てていくために、地域の中で実際に活動に取り組んでいくことが‘まちづくり’です。

現在、地域においては、地域の一角にある花壇の整備や、公園の清掃、豊かな緑地や歴史的遺産など地域の共通財産を守り活用する活動など、多種多様なまちづくり活動が進められています。また社会構造の変化や市民の価値観の多様化と共に、まちづくりのテーマも多彩なものになってきています。



## (2) 合意形成ってどんなこと？

### ポイント

‘合意形成’とは、皆が納得できるように創意工夫をしながら、多様な意見をまとめることです。

### ① 合意形成とは

地域には様々な人々がかかわりながら生活しており、当然それぞれの価値観も千差万別です。例えば、地域に空き地があった場合に、違法駐車防止のために駐車場を整備しようとする人もいれば、子供たちの遊び場にしようとする人もいます。

そこで、地域において何かを決める、あるいは行おうとする際には、地域の住民の多様な意見を適切に調整しながらまとめ、そのまとめた結果を地域全体の意向とし、その意向に基づき検討を進めるということが重要になります。

この本においては、多様な意見や考え方をまとめることを‘合意形成’と定義します。

### ② 合意形成の2本柱

多様な意見や考え方をまとめたと言えるものとは、皆が納得できるものでなければいけません。そして、様々な考え方があがる状況において、皆が納得できるものを見出すには創意工夫をする必要があります。

よって、合意形成を図る上では、次の2点が非常に重要であり、言い換えれば次の二つを大きな柱として合意形成は成立するものであると言えます。

(ア) 皆が納得できるものを見出すこと

(イ) 納得できるものにするために創意工夫をすること

#### 第1部

1章-1節  
まちづくりに関する  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

#### 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴く

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

## 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

## 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づ

Step 2  
まちづくり組織をつ

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

# (3) どうして合意形成が必要なの？

## ポイント

地域の住民が一緒になってまちづくり活動に取り組むことを目指すには、多くの住民の理解や納得を得ることが必要です。

## ① 地域におけるまちづくりが目指すもの

地域におけるまちづくりには、まちづくり活動のテーマに賛同する仲間同士により始められるケースが多く見受けられます。しかし、仲間同士だけによる活動に終始せず、その活動の輪を少しずつ広げていき、地域に根ざした活動とし、多くの住民がその活動の意義を理解し取り組んでいくことを目指したいものです。

まちづくり活動の初期段階においては、活動内容の広報や楽しいイベントの開催により、皆に活動内容を知ってもらい、少しでも活動にかかわってもらうことや地域とのコミュニケーションを深めることに取り組む努力をします。

しかし、それだけではなく、地域の住民が活動に納得し取り組んでいくことを目指すためには、活動内容を丁寧に説明し理解を得ること、アンケートなどにより多くの住民の意向を把握した上で活動内容を検討すること、互いの意見を把握し理解を深めるために意見交換の機会を設けること等が求められます。



## ② 地域に根ざした活動とするために

前述のように、多くの住民が共にまちづくり活動に取り組むという地域に根ざしたまちづくり活動へと発展させるためには、十分な情報提供を行った上で多くの住民の考え方や意見を聞き、それを今後の活動に反映させるよう共に検討を重ねて、地域の人々の納得を得られるように努めなければいけません。

地域には多様な意見を抱く多様な住民がいます。そのような中で、その地域のまちづくりとして、多くの住民の納得がいくものを見出していくために、合意形成が必要になるのです。

### 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

### 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

# 第2節 まちづくりの進め方

地域における身近なまちづくりは、どのように進められているのでしょうか。実際の事例を取り上げて、その進め方を見てみましょう。

第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

## (1) まちづくり活動の特徴

ポイント

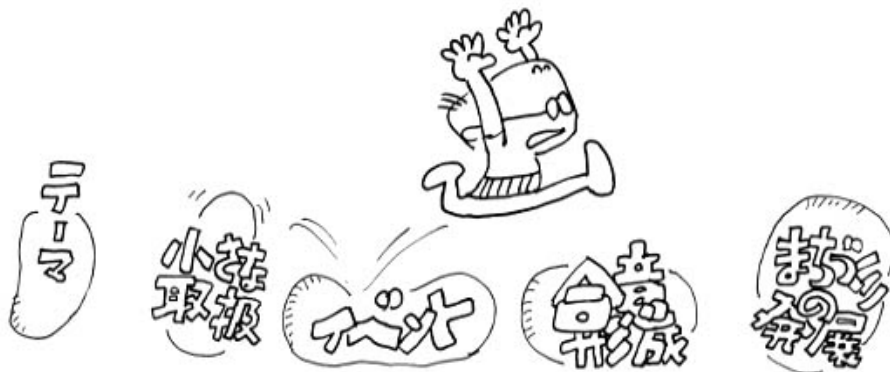
まちづくりは、その活動の輪を広げ、地域との連携をとりながら、多くの地域住民が参加する活動へと発展していきます。

地域におけるまちづくりについては、そのテーマや地域の特性に応じて適切な取り組みが求められ、実際に多種多様な活動が繰り広げられています。

しかし、まちへの思いをきっかけに活動が始まり、地域住民、商店街、自治会・町内会など、地域にかかわる人たちと共同で活動に取り組み、連携をとっていくことにより、多くの住民が自然と活動に参加するようになるという過程は、多くのまちづくりにおいて見受けられ、まちづくり活動の特徴であると考えられます。

また、第1章第1節でも述べたように、地域と連携をとり、活動の幅を広げていくことを通して、まちづくりが地域に根ざした活動へと発展していくことに期待したいところです。

次の(2)において、身近なまちづくり活動の例を紹介しながら、このようなまちづくりの進め方の特徴を説明します。





## 実例紹介

### 地域全体のまちづくり活動へ(1)

～若い力で街に新風 たまプラーザ駅中央商店街の一角の「ヒマバコ」～

「自分の思い描く夢を実現したい」、そんな思いを胸に、イベントなどを企画・運営する若者が集まる場所がある。横浜市青葉区美しが丘二丁目のたまプラーザ中央商店街の一角にある「ヒマバコ」。自由な発想で活動できるスペースという名前の由来そのままに若者たちが集う。活動に協力するうち、地元自治会や商店街など地域ぐるみの交流も盛んになってきた。

ヒマバコは平成14年4月にオープン。「若い人の力で地域に新風を巻き起こせないか」と考え、同商店街の人が東急田園都市線たまプラーザ駅近接の一等地を提供した。その土地の自社ビルの1階フロアにある70㎡の集いの場が「ヒマバコ」である。地元の小中学生から市外の大学生まで多彩な人たちがロコミで集まってくる。福祉ボランティアや祭りの企画など、目的はさまざま。

利用者は机の上で単に企画を立てるだけではない。協力してもらえよう地元の商店街や自治会などとの交渉にも奔走する。

実現に至らない企画も多い中で、美しが丘地区で開かれているハロウィーンイベントは、定着した企画の一つである。魔女などに仮装した子供たちは、近所の家々にお菓子をもらいに歩く。子供は訪ねた家の住人にチョコレートやあめをもらう。「ありがとう」「どういたしまして」。普段は会話する機会が少ない子供と地域住民との交流に一役買っている。

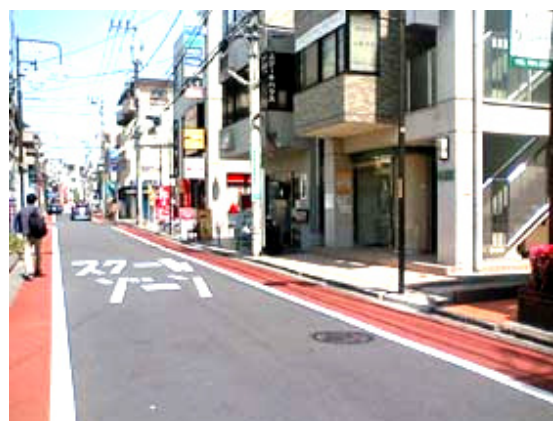
このイベントは、中学生から大学生まで約20人が中心になって運営し、3年前から続いている。定着の陰には、自治会や商店街との密接な協力関係がある。自治会はお菓子を提供してくれる家庭の募集に協力し、商店街は飾り付けをしてハロウィーン気分を引き立てる。両者に働きかけたのがヒマバコのメンバーたちだった。

「ヒマバコができてから商店街と自治会で会合を持ち始めるなど交流が深まっている。」と「ヒマバコ」のスペースの提供者は手応えを感じている。

(平成17年3月7日 神奈川新聞記事より)



「ヒマバコ」の外観



たまプラーザ中央商店街

#### 第1部

1章-1節  
まちづくりに関する  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

#### 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

## 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

## 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

# 実 例 紹 介

## 地域全体のまちづくり活動へ(2)

～商学交流の先駆け 和田町商店街～

横浜市保土ヶ谷区和田町商店街は、相模鉄道線和田町駅前の商店街であり、近くには横浜国立大学がある。平成13年度から、商店街の活性化を図ることなどを目的として、横浜国立大学、地域住民、保土ヶ谷区役所により共同事業「和田町いきいきプロジェクト」を実施している。これまで、牛乳パックを再利用した車止めを設置する違法駐車一掃実験など、多彩な事業を展開してきた。

これまでの活動の中で奏功した一つは、学生の発案で従来のイベントを再構築した「和田町べっぴんマーケット」。メインストリートを歩行者天国にし、路上でのワゴンセール、フリーマーケット、オープンカフェなどを開催。幼稚園児や小学生が描いた母親の似顔絵コンテスト、新潟県中越地震へのチャリティー募金など、地域・社会性を持ったイベントも盛り込んで行ってきた。国大側は、マイクロバスで周辺の住宅地と商店街を往来したり、人手がない商店の売り子を学生が務めるなどし、盛り上げる。

平成15年12月から3回開催した同マーケットでは、夏場の祭りの時よりも売上げが伸びるなど、商店街の内部からも好評を得ている。平成17年3月に実施する4回目には、商学交流を進めたという東京・板橋の区商連が、20人ほど視察に訪れる予定である。

商店街には、いわゆる空き店舗はない。撤退する店舗があっても、「商学交流で非常に知名度が上がり、和田町に出店したいという人がすぐに出てくる」状況といい、外部からの注目度も高い。

4月には商店街、国大、地元の和田西部町内会、横浜商工会議所の四者で新たな組織「和田町タウンマネジメント協議会」を発足させる。商店街と地域の活性化を目的に行ってきたこれまでの事業を、街づくり全体に発展させるための試みだ。商店側は、地元の学校に通う障害者と交流を深めることや子供・高齢者のバックアップを検討。大学側は、環境や防災対策につながる街づくりを視野に入れている。

和田町商店街は「商学交流」の先駆けである。「産学交流は『ものづくり』だが、商学交流は『人づくり』。人間関係の構築が進んでいけば安全な街になる」と理事長は言う。和田町で築かれた人の輪が、街の未来を形作っていく。時間はかかるが、人の輪を広げることが将来の街のためになると決断したことを見習いたい。

(平成17年3月3日 神奈川新聞記事より)



和田町商店街

## 実例紹介

### 地域全体のまちづくり活動へ(3)

～利用者ニーズに合った地区センターに～

神奈川県の神大寺地区センターは、神奈川県で最初の地区センターとして、昭和56年に地域住民の期待の中で設立された。利用者は年間約9万人、稼働率60～70%の平均的な地区センターである。

昭和62年の横浜市営地下鉄の延伸に伴い、周辺農地の宅地が急速に進み転入者が増えてきた。若年層の住民が増加し、近隣在住外国人や地下鉄利用の周辺地域からの来館者もあって、地区センターを利用する人も多様化してきた。

そのような状況の下、地域づくりの要としての地区センターの運営を地域住民の意見や要望を取り入れた共存型にしていこうという取り組みが始まった。

平成9年より毎年1～2回、センター運営委員会が区役所の協力も得て、「利用者のつどい」を開催した。この利用者のつどいでは、利用者からの多様な意見や要望を取り入れ、十分は話し合いを行い、利用ルールの改善を行った。また、この「利用者のつどい」では、利用団体や個人との相互理解と親睦や交流も目的の一つとして、親交を深めるために、開催に当たっては、ティーブレイクを設ける、椅子の並べ方を工夫する等のことに努め、陰湿な雰囲気にならないような配慮も行った。

また、平成9年からは、実行委員会制によりセンター祭りを開催している。実行委員をグループに分け、祭りの企画の検討をしている。企画を検討し実行する過程において、利用者と館職員など実行委員同士のパートナーシップが生まれてくる。実行委員同士が、終了後に互いに家を行き来しているなど地域連携にも役立っている。最終日には、実行委員同士の親睦と交流を深めるために、体育館で交流パーティーを開催している。数ヶ月かけて準備してきた祭りの総決算であり、この時は、余興、福引ありで、缶ビールで乾杯する。現在では、センター祭りの目玉イベントとなっている。

また、自主事業を行い、地域の人々の声を反映させるための工夫を行っている。例えば、地域講師(町の名人や在住外国人)による事業、近隣の学校との連携事業などの事業を行っている。

(平成12年3月 横浜市調査季報より)



神大寺地区センター外観



神大寺地区センターのロビー

#### 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

#### 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1

地域の課題に気づく

Step 2

まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3

みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4

まちの将来像を  
考えよう

Step 5

まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6

必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7

定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8

地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9

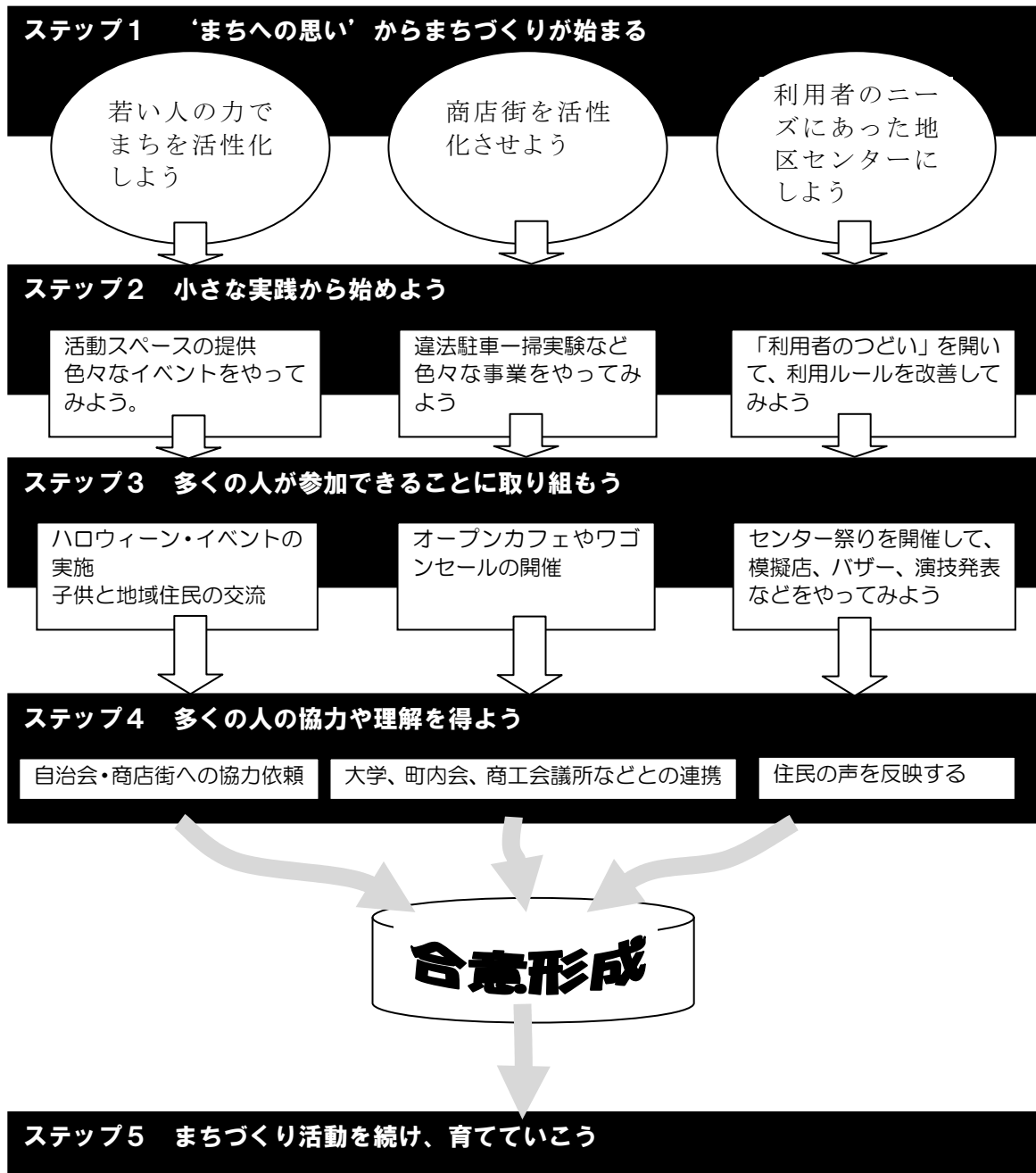
地区計画案の  
最終確認をしよう

## (2) まちづくり活動のステップ

ポイント

まちづくりは、そのステップを進めながら、地域に根ざした活動へと発展させていくことが望めます。

下表は、第1章第2節の事例を基に、まちづくり活動の流れをまとめたものです。





## 第1部

1章-1節  
まちづくりに関する  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

## 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

## ① ステップ1 ‘まちへの思い’ からまちづくりが始まる

まちへの思いがまちづくりのきっかけです。そして、その思いをテーマとして、まずは気が付いたことから取り組んでいくことがまちづくり活動の出発点です。

「たまプラーザ中央商店街」の場合は、「地域を活性化させたい」という思いを抱いた商店街の人が、集いのスペースを提供したことから、まちづくりが始まりました。

「和田町商店街」の場合は、商店街の活性化を図るために、地域住民、大学、区役所が共同で「和田町いきいきプロジェクト」を実施したことがスタートでした。

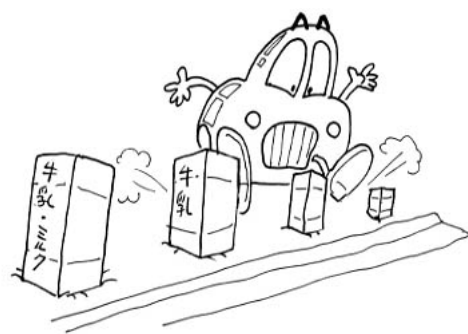
「神大寺地区センター」の場合は、多様な人々が地区センターを利用するようになってきた中で、各々の人が楽しく有意義に利用できるような施設にしたいという意向が生まれ、利用者のニーズにあった運営への取り組みが始まりました。

## ② ステップ2 小さな実践から始めよう

まちづくり活動の初期においては、地域の住民が楽しく気軽に参加できるイベントや負担とならず取り組める活動などを実施します。あまり難しく考えず、自分たちができること、行動しやすいことから取り組み、小さな実践を積み重ねていくことが大切です。

「たまプラーザ中央商店街」の場合は、色々な企画を考え、そして、商店街や自治会に協力の交渉をするなど、地道な取り組みを重ねました。このような取り組みを行っても実現に至らないイベントが多い中で、ハロウィーンは、定着したイベントの一つです。

「和田町商店街」の場合は、再利用牛乳パックで作られた車止めの設置による違法駐車一掃実験など、多彩な事業を展開していきました。



## 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

「神大寺地区センター」の場合は、センター運営委員会が区役所の協力を得て「利用者のつどい」を定期的に関き、利用者の要望や意見を取り入れ、それを反映させるための検討を重ね、利用ルールの改善を行いました。例えば、体育館の利用時間区分、目的別のゾーン分け、用具の使用方法などのルールを見直しています。

このように試行錯誤しながらも自分たちがやってみたいと思うこと、行動できることから、取り組み、まちづくり活動を地域に少しずつ浸透させていくことを目指します。

## 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認しよう

### ③ ステップ3 多くの人に参加できることに取り組もう

前ステップにおいて、小さな実践を積み重ねることにより、地域においてまちづくりがある程度普及してきたら、次に、活動の輪を広げ地域の多くの住民がまちづくりに参加し、共に活動に取り組むことができるような場づくりを考えます。

「たまプラーザ中央商店街」の場合は、自治会や商店街の協力を得てハロウィーンイベントを続けています。魔女などに仮装した子供たちが、近所の家々にお菓子をもらいに歩くという活動です。自治会はお菓子を提供できる家庭を紹介し、商店街は飾り付けを行いイベントを盛り上げます。このイベントには、ふだんは会話する機会が少ない子供と地域住民が共に参加することができ、お互いの交流が深まっています。



「和田町商店街」の場合は、学生の発案で従来のイベントを再構築し「和田町ベッピンマーケット」を開催しました。メインストリートを歩行者天国とし、路上でのワゴンセール、フリーマーケット、オープンカフェに取り組みました。また、商業活動以外にも、似顔絵コンテスト、チャリティー募金など地域・社会性を持ったイベントも展開しました。これらの活動を通して、商店街には地域の色々な人が集まるようになり、居住者の共感も得ています。

「神大寺地区センター」の場合は、毎年秋にセンター祭りを開催しています。企画の内容は実行委員会で毎年検討しており、平成11年には模擬店、バザー、展示、演技発表などを行いました。この祭りの来場者数も増加しており、地域の人々が楽しく交流できる場となっていることがうかがえます。

このように、地域の多くの住民がまちづくり活動にかかわり、そしてその活動自体を享受できるような活動の方法や企画を考え、実行していくことが求められます。

コラム

## 活動の心臓となる事務局

活動の輪を広げていこうとする際には、事務作業が伴います。例えば、活動内容をお知らせするための広報紙の作成・配布、会議のため日程調整や資料作成、イベント実施の段取りや予算調整などがあります。この作業による負担は、活動の輪が広がる程大きくなりますが、スケジュールに沿って円滑に進めていく必要があるため、作業を行う事務局の役割が重要になってきます。

よって、まちづくり活動を進めていく上では、事務局の役割を担う人を決めて、スケジュールを進めていくための事務作業を円滑に処理していくことが重要です。

### 事例紹介

#### 目に見える実験で参加者を増やす

ある駅前の街路内で放置自転車が問題となっていました。

その解決策として、街路を何かに利用することが提案され、「オープンカフェ」が実験的に実施されました。これが好評であったため、その規模も拡大し、月1回の定期的開催を行うようになりました。運営には、商業関係者以外に多くのボランティアもかかわっています。最近では、月3回開催されるなど、頻度も増えています。

オープンカフェのように、目に見える活動を実験的に実施することで、まちづくり活動への参加者を増やすことができる場合があります。

## ④ ステップ4 多くの人の協力や理解を得よう

多くの人がまちづくり活動に参加するようになったら、さらに、地域の協力や理解を得るように取り組みます。

「たまプラーザ中央商店街」の場合は、自治会や商店街の協力を得るために働きか

### 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

### 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

## 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

## 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

けました。中学生から大学生までの約20人が中心となって運営し、3年間かけて自治会や商店街の人々と密接な協力関係を築いてきました。この取り組みの結果、地域の多くの住民がハロウィンイベントに協力してくれるようになりました。

「和田町商店街」の場合は、商店街と地域の活性化を目的に行ってきた事業を、まちづくり全体に発展させるために、商店街、大学、町内会、商工会議所の4者により「和田町タウンマネジメント協議会」を発足させました。地域との連携を醸成していくために、商店側は、地域の学校に通学する障害者との交流を深めること、子供や高齢者のバックアップをすること、大学側は、環境や防災対策につながる街づくりを視野にいられています。

「神大寺地区センター」の場合は、地域の人々の声を生かした地区センターの活用ができるように工夫をしています。実際には、①社会的要求課題や地域の必要課題中心の生涯学習、②世代間交流、③既存グループの支援講座、④地域講師(町の名人や在住外国人)による事業、近隣の学校との連携事業など年間約50件の自主事業に取り組んでいます。

このように、商店街、自治会・町内会などの地域の地縁組織や、近隣の学校や他の市民活動団体などに協力を求める、地道に地域の人たちの興味や関心を促す等という活動に取り組む等、地域への直接的あるいは間接的に働きかけを行うことを通して、多くの住民がその意義を感じてかかわることができるようなまちづくり活動へと発展させることを目指します。

### 事例紹介

#### 互いの理解を得るための工夫

ある地域に大きな森がありました。その所有者より森を借りて「市民の森」として住民に公開しようと動きが出しました。しかし、所有者の間からは、自分たちだけでは森を管理できないという意見が持ち上がる一方、住民が管理するために森に入ることへの不安や戸惑いの声も上がりました。

そこで、所有者が住民に対して持っている不安を取り除き、また、住民が所有者の思いを理解できるように、「森づくり講座」が開催されました。講座では、所有者に作業の指導をお願いし、住民との交流を深めました。この講座を通じて所有者の中に住民の活動を評価する考えが生まれ、最終的には所有者自らが住民に保全活動を呼びかけることになりました。



## ⑤ ステップ5 まちづくり活動を続け、育てていこう

地域の多くの住民の理解や協力を得たまちづくり活動は、それを続けていくことで更に意義が深まります。地域にとって必要であるまちづくり活動を継続し、そして、時代と共に変化する住民のニーズに合わせて育てていくことで、魅力的で愛着を感じるまちを維持することができると言えるでしょう。

### 事例紹介

#### 公園を造った後もまちづくり

個人が市に寄贈した長屋門、母屋、屋敷林を特色ある公園として整備することを目標として、公園づくりが始まりました。そして、町内会、歴史や緑をテーマとした活動グループなどに徹底して意見を聴き、地域の声を生かした魅力ある公園がオープンしました。

この公園の大きな特徴は、「本当に市民のものだと思える施設を造りたい」という要望もあったことにより、市民により管理運営が行われていることです。

現在では、常時4人のボランティアが運営にかかわっており、ときには数十人もの地域の住民が、協力しながら、季節や歴史を体感できるイベントや遊び、昔ながらの年中行事を行っています。

このように、公園づくりが終了しても、多くの人が活動する生き生きとした公園となっています。そして、地域に愛される憩いの場として、また地域住民の活動拠点としてネットワークをはぐくんではいます。

### 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

### 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

## 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

## 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

# (3) 合意形成が必要なとき

## ポイント

多くの住民が理解し納得できる「まちづくり」を見出すためには、合意形成を図ることが必要になります。

まちづくり活動は、そのテーマに賛同する仲間同士で始められることが多いです。

ステップ1・ステップ2・ステップ3の過程は、主にその仲間同士による活動ではありませんが、多かれ少なかれ合意形成が行われていることでしょう。

しかし、将来的に地域に根ざした活動となることを目指すためには、仲間以外の地域の多くの住民にまちづくり活動について納得してもらうことが必要であるということは、第1章第1節で示したとおりです。

この本では、そのような多くの住民間における合意形成が特に重要であると考え、特にステップ4に示すような‘多くの住民間’における合意形成を取り上げ、次章以降でその取り組み方などを解説します。



# お役立ち情報BOX

## 自治会・町内会ってどんなところ？

### <自治会・町内会とは>

自治会町内会は、町や丁目などの一定の区域に居住する人々が、それぞれの地域に起こる課題を解決することや、住民相互の親睦を図ることを目的に自主的に組織された住民団体です。また、地域に住む人で、会の趣旨に賛同する人なら誰でも加入できます。

自治会町内会は地域住民の福祉増進を目的とした活動を行うとともに、新旧住民の交流や親睦を図り、いざという時に助け合える住民同士の「絆」を育んでいます。

### <役割>

横浜では、急激な人口増加や高度経済成長の中で、公害・交通・ごみ問題などをはじめ、生活環境・住宅問題などの多くの都市問題が発生しました。

市内の自治会・町内会は、その時々で地域の課題解決に積極的に取り組みながら地域の将来やニーズを考慮した地道な活動を行ってきました。さらに、安全で安心な住み良いまちづくりが最も重要な課題として挙げられる昨今では、日頃の犯罪に対する目配りや災害等、不測の事態や緊急の課題にも対応する最も身近な拠り所として、地域の日頃の付き合い、人とのつながりを基盤とする自治会・町内会の役割はますます重要になっています。

### <活動内容>

自治会・町内会では、例えば、下記のような活動をしています。

- ・防犯パトロール    ・防犯灯の維持管理    ・防災訓練    ・敬老お祝い
- ・募金活動(赤十字、赤い羽根、歳末助け合いなど)    ・子ども会の活動支援
- ・レクリエーション(盆踊り、夏祭り、運動会等)    ・公園の維持管理(清掃、草取り等)
- ・ごみの分別と減量の推進    ・広報配布、回覧板    ・まちのルールづくり 等

#### 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

#### 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

## 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

## 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

### <まちづくりと自治会・町内会との関係>

横浜市では、自治会・町内会加入世帯数は増加傾向にあり、全体の加入率は7割を超えています。(平成25年4月1日現在)

地域におけるまちづくりとは、住民が、今後も快適にかつ安心して地域生活を送ることができるよう、地域を共同で守り育てていくことであると考えます。

地域のまちづくりを担ってきた自治会・町内会には、この‘地域を共同で守り育てる意識’が強く根付いています。そのため、まちづくりを進めるうえで自治会・町内会は大切なパートナーと言えます。

# 第2章

## 合意形成を目指して

### 第1節 合意形成の心構え

- (1)合意形成はプロセス重視 ……32
- (2)納得するための創意工夫とは ……33
- (3)合意形成には信頼関係が大切 ……34

### 第2節 合意形成を進めるために

- (1)意見や知恵を集める ……37
- (2)意見を言いやすい場づくり ……40
- (3)意見を述べる時の注意点 ……44
- (4)進行役の心構え ……46
- (5)意見の裏をのぞいてみよう ……48
- (6)意見をまとめるために ……51

まちづくりは持続する ……52

## 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

# 第1節 合意形成の心構え

合意形成が目指す‘納得できるもの’とはどのようなものでしょうか。その合意形成には、どのような心構えで取り組めば良いのでしょうか。

## 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

## (1) 合意形成はプロセス重視

ポイント

住民同士が互いの意見を理解しあい、共に解決に向けて考えていく過程を無視しては、合意形成は成り立ちません。

### ① 結論を出すことに焦るのは危険

第1章第1節において合意形成とは多様な意見をまとめることであると定義しましたが、話し合いが決裂する、意見調整が上手くいかないという事態になると、多数決で決着をつけようとする場合があります。多数決は、物事の論点を明確にし、民主的で最善の解決策に見えますが、実際は勝ち組と負け組を生み出し、両者の間にはしこりが残り、その後、関係修復のために多大なエネルギーを費やすことになり兼ねません。さらに、「多数決で既に決まったことだから」と、その後の創意工夫の努力は行われなくなってしまいます。

結論を出すことに性急になり、十分な議論を経ずに多数決で決めてしまうなどというようことは、後のトラブルを誘発する可能性があります。

### ② 互いが理解し共に考えるプロセスが大切

行き詰ったときには、これまでの活動の中で耳にした住民の声などを示すことにより、お互いに地域の住民のニーズを把握してもらい、共通の土壌に立つてもらうことが重要です。その上で、地域の課題やその解決策について共に考えていくことが必要になるのです。

結論を出すことだけが合意形成の目的ではありません。お互いを理解し共に考えるというプロセスを丁寧に踏んでいくことが、合意形成を図る上での秘訣です。

## (2) 納得するための創意工夫とは

### ポイント

‘真に納得できる状況’を作り出すために創意工夫を図るには、コミュニケーションの取り方が重要になります。

第1章第1節において、合意形成とは、‘納得できるものを見出すこと’、‘そのために創意工夫すること’であると述べましたが、それは具体的にどのようなことなのでしょう。

### ① ‘真に納得できる状況’とは

多様な価値観のもとに多様な意見が存在する状況においては、単に相手に自分の意見の正当性を説得することや、対立者間の感情を和らげ仲裁することでは、‘真に納得できる状態’は作り出せません。

そもそも、真に納得した状態とは具体的にどのようなものなのでしょうか。

この状態は、「Win-Win-in-Situation」(アメリカで用いられている話し合いの考え方の一つ)という言葉により端的に表現することができます。‘皆が勝者と感じる状況’という意味合いです。言い換えれば、意思決定の場における参加者全員が、自分の意見が通ったと思える状況です。

### コラム Win-Win-Situation を語る逸話

仲の良い姉妹が一つのオレンジをめぐる争いになりました。通常の解決策では、オレンジを半分に切るか、ジャンケンでどちらかが取るということになります。しかし、半分に切った場合は、両者とも半分の満足度しか得られなく、ジャンケンの場合は、どちらかのみが食べることになり、満足を得られる‘勝者’と満足を得られない‘敗者’を生み出してしまいます。

そこで、母親が姉妹と対話し、本当のニーズを聞き出しました。すると、妹はオレンジジュースの材料としてオレンジの中身を、姉はマーメイドの材料としてオレンジの皮を欲していたことがわかり、双方とも勝者となり得る解決策が見出されました。



## 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

## 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1

地域の課題に気づく

Step 2

まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3

みんながまちをどう  
思っているか聴く

Step 4

まちの将来像を  
考えよう

Step 5

まちの将来像を  
共有し実行しよう

Step 6

必要なルールを  
検討しよう

Step 7

定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8

地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9

地区計画案の  
最終確認をしよう

## 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

## 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

## ② 創意工夫にはコミュニケーションが鍵

真に納得できる状況を見出すためには、どうしたらよいのでしょうか。

まず、互いの意見を十分に理解し、その裏にあるニーズを見つけ出します。そのニーズこそが各人が納得できるための要素となるのです。そして、これらの要素が共存できる方法を熟慮し、それらの要素が結集されたものを見出します。この結集されたものが真に納得できる状況と言えます。そして、この一連の過程を進めるために‘創意工夫’が求められます。

したがって、創意工夫を図るためには、いかに上手くコミュニケーションを取って相手の真意やニーズを見出すか、また、それらを結集したものを生み出すためのアイデアを引き出してしていくかということが重要になると言えます。「三人寄れば文殊の知恵」ではありませんが、皆が意見を出し合えば、知恵が生まれるはずですよ。

コミュニケーションの取り方については、場面や目的に応じた手法を資料編(137～146 ページ)で紹介していますので参考としてください。

## (3) 合意形成には信頼関係が大切

ポイント

信頼関係の構築には、能力や実力だけでなく誠実さや正直さも欠かせません。

合意形成を進めていくためには、互いの信頼関係の構築が必要不可欠であることは言うまでもないことでしょう。信頼の欠如は、それが原因で誤解や対立を生み、そしてその誤解や対立によって、ますます信頼が損なわれるという、悪循環を招いてしまいます。

では、信頼関係を築くためには、どのような心がけが必要なのでしょうか。

信頼関係は、次の二つの要素が満たされたときに構築されると考えられます。

(ア) 自分の意見・提案内容に対して相手の信用を得ること  
(信憑性・理論性)

(イ) 自分的人性に対して信じてもらうこと(安心感)



## ① 能力と実力に基づく誠実な態度

(ア)については、自分が意見や提案を述べる際に、その内容が正しいものであること、理にかなったものであることを相手に理解してもらうことにより満たすことができます。そして、その理解を得るためには、専門知識や経験に基づく説明が必要になります。

しかし、ここで、注意したいことは、その専門性や経験が両刃の剣となることがあるということです。

能力や実力を持つ人は、知識のない相手に対し、「自分はその道の専門家だから、その道に関することは自分に任せておくように」と、能力を誇示し相手を掌握しようという態度をとりがちです。しかし、このような態度は、相手に強引で不誠実な印象を与え、不信感を募らせてしまいます。

知識のない相手に対しても、自分の主張や提案に対してわかりやすく丁寧に説明を行い、質問に対して的確に対応するという真摯な態度が必要です。

能力や実力だけでなく、そのような誠実さがあってこそ、自分の意見や提案の内容を相手に信用してもらえることになると言えます。



### 第1部

1章-1節  
まちづくりにける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

### 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴く

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

## 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

## 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴く

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

## ② 誠実さと正直さによる安心感

相手の意見や提案内容を信用したとしても、「相手は、実は都合の悪いことは隠蔽して、自分を上手く騙して、思惑通りに進めてしまおうとしているのではないか」と疑心暗鬼になってしまう人は少なくありません。

そこで、誠実で正直な態度をとることに努め、自分は相手を騙すつもりはないということを理解してもらい、(イ)に示すように、自分という人間に対して安心感を持ってもらうことが求められます。この安心感がないと、相手の心をつかむことはできず、信頼関係は構築されません。

「この人は自分を騙すつもりはない。この人なら信じられる」と確信してもらうためには、自分にとって都合の悪いことも隠さず話す、相手にとって良くないことであれば止めることもあり得るということを約束するなどというような心がけが必要です。

### コラム

## 日常の積み重ねなくして信頼得られず

信頼関係を構築するには、お互いの親近感を醸成することも重要なポイントとなります。この親近感が得られなければ、お互いの不信感や不安感を払拭することはできません。

親近感を醸成していくためには、日常的なコミュニケーションや身近な活動の積み重ねが必要になります。

日常的なコミュニケーションについては、最も身近なものとしては「あいさつ」が挙げられます。あいさつは、ささいなコミュニケーションではありますが、それを積み重ねていくうちに、地域の住民同士の間には自然と親近感が湧くものです。

また、清掃活動など、地域のための身近な活動に汗水流して取り組むことは、地域の住民に喜ばれ、親しみや信頼を感じてもらえることにつながります。

# 第2節 合意形成を進めるために

ここでは、円滑に合意形成を進めるためのコツを提案します。合意形成の基本は話し合いであると考え、(2)以降では話し合いによる合意形成を想定し、そのコツを示します。

## (1) 意見や知恵を集める

### ポイント

地域の色々な意見を聴き、それらを取り込んでいくための知恵やアイデアを集めましょう。

まちづくりのテーマに賛同する仲間同士だけで検討を進めていると、どうしても考え方が偏りがちになってしまいます。第2章第1節で示したように、多くの人が理解し納得できるものを見つけるには、地域の多様な意見を把握し、それらの意見が取り込まれたものを作り出さなければいけません。その多くの住民の多様な意見が取り込まれたものでなければいけません。そして、その取り組み方を考えるには、多くの人から知恵をもらう必要があります。

### ① 色々な人に意見を聴こう

地域の多様な人の意見を把握し、そして知恵をもらうためには、仲間の輪を広げて、色々な人と接触を持ち、意見を聴くことに心がけます。

例えば、公募をして仲間を増やすことで、仲間同士による検討の中では生まれなかった違う意見を知ることができます。さらに、意見だけではなく、知恵やヒントをもらえるかもしれません。

また、住民だけではなく、学生、NPO、商店主、有識者など、違う立場の人に意見を求めてみることも、新たな視点や考え方を発見できるなど有意義である場合があります。

### 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

### 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

## 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

## 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルール項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

### コラム

## 公募だけで大丈夫？

公募には、平等である、透明性が高い、地域の住民全員に参加の機会を提供することができるなどというメリットがあります。しかし、公募だけに任せてしまうと、自己主張の強い人や、まちづくりではなく議論そのものを目的とする人なども集まってしまう恐れがあります。

したがって、まちづくりの検討組織を作る際には、公募者の中から適切に人選を行うことや、公募とは別に必要なメンバーを推薦・勧誘することにも心がけましょう。推薦・勧誘の際には、賛成意見の人と反対意見の人、そのまちづくりのテーマの専門家や意見をまとめる技術に長けている人、若くて活発な人、色々なネットワークを持っている人などにも声をかけてみることも有用です。

また、地域の中に最も多く存在するのが、賛成や反対というような特に積極的な意見は持っていない人たちです。このような人たちは公募をかけても、委員には名乗り上げないでしょう。しかし、後に何かを決めようとするときには、この多くの人たちの意見が結果を大きく左右することになります。したがって、公募による委員で検討を進めていくときには、常にこの背後にいる多くの人たちの注意をいかに引いていくかということを気に留める必要があります。「委員だけで勝手に盛り上がり進めている」、「どうせ他人事だ」などと思われないようにしましょう。

しかし、このような人たちに直接説明をしに行く、委員になってもらうように説得しに行く、無理な働きかけを行うというようなことをすると、逆に意識が遠ざかってしまう場合があります。したがって、例えば、広報などで、この多くの人たちに語りかけるような内容の工夫をするなど、間接的な働きかけから始めてみましょう。

## 広く意見を聴く方法

地域全体に対して意見を聴くなど、広く意見を聴くための方法として、アンケート、ヒアリング調査などがあります。

### ● アンケートの特徴

広く意見を聴く方法は多数ありますが、そのうちアンケートは最も代表的な意向調査の方法です。アンケートのメリットは、抽象的な意見を量として把握できることです。また、1回で回答を出す多数決とは異なり、少数意見を切り捨てずに吟味することができます。

そして、回答する側の住民にとっても、好きな時間に人を気にせず意見を記入することができるというメリットもあります。なお、アンケートを作る際の注意点については、第2部第2章まちづくりの進め方を参照ください。



## オープンな意向調査

意向調査というとアンケートや街頭調査をイメージする人も多いかもしれませんが、最近は、夏祭りなどのイベントと兼ねて意向調査を行うケースも増えています。

例えば、パネル展示やビデオ上映などにより、まちづくり活動の紹介を行い、同時にそのまちづくり活動について意見をもらうという方法があります。この方法は、一般的には‘オープンハウス’と呼ばれています。

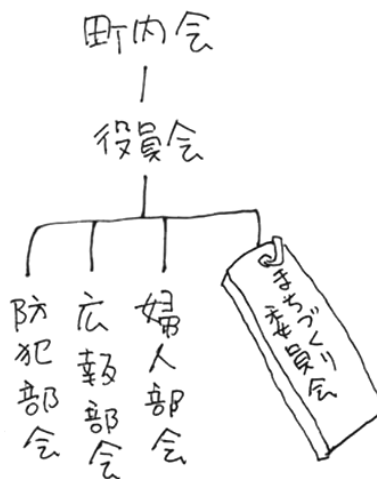
アンケートは突然調査票が送付されるため強制的なイメージや義務感を抱く人も少なくありません。一方、オープンハウスは、イベントという楽しい雰囲気の中で興味を持った人が立ち寄るという意向調査であり、気軽な気持ちで臨むことができるため、自由で率直な意見交換ができることが特徴です。

## ② 地域の地縁組織との連携

自治会・町内会、商店会などの地縁組織は、地域の多くの住民の代表であり、地域の特質や住民の思いを把握しています。よって、これらの組織との連携を図り検討を進めることで、地域性や住民の意向を反映させたもの考えることができます。

そして、地域におけるまちづくりに関する経験が深く、地域のことを良く把握している地縁組織ならではの知恵をもらうこともできるかもしれません。

また、その組織の持つ既存の地域情報やネットワークを活用することができるという副次的効果もあります。



<b>第1部</b>	
1章-1節	まちづくりにおける合意形成の意義
1章-2節	まちづくりの進め方
2章-1節	合意形成の心構え
2章-2節	合意形成を進めるために

<b>第2部</b>	
1章	地区計画とは
2章	地区計画の合意形成の流れ
ステージ1	活動の準備をする
Step 1	地域の課題に気づく
Step 2	まちづくり組織をつくる
まちづくりの進め方	
ステージ2	まちづくりを考える
Step 3	みんながまちをどう思っているか聴こう
Step 4	まちの将来像を考えよう
Step 5	まちの将来像を共有し実行しよう
ステージ3	ルールづくりを考える
Step 6	必要なルールの項目や内容を考えよう
Step 7	定めるルールの種類を検討しよう
Step 8	地区計画としての内容を検討しよう
Step 9	地区計画案の最終確認をしよう

## 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

## 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

## 地縁組織との連携の注意点

地縁組織に対して、まちづくり活動についての提案や連携を求めたときに、快くは受け入れられない場合があります。地縁組織にはその歴史があり、またその任務があるので、新たなテーマの活動に懐疑的な思いを持つからではないでしょうか。

このような場合には、無理に理解してもらおうとはせず、互いの意見を十分に聴き、理解をし、地域のニーズや課題、必要な取り組みについて共に知恵を出し合いながら考えていくことが必要でしょう。



## お役立ち情報BOX

### いろいろな活動団体があります

横浜市では、環境や福祉を始め多様な分野においてボランティア活動やNPO活動が盛んです。このような活動をしている人たちにもまちづくり活動に加わってもらうと効果的な場合があります。より活発に活動が行われるだけでなく、違う視点からの新しい考え方や知恵をもらうことができ、活動の内容や方法が発展します。また、このような様々な活動団体同士のネットワークを持っておくと、まちづくりを進めていく上でお互いが助け合うことができます。例えば、イベントの開催の際の他組織との調整などがスムーズに運ぶかもしれません。

現在、市民活動の共同オフィスやインターネットなどを利用して、これらの様々な活動団体の情報を得ることができます。

## (2) 意見を言いやすい場づくり

**ポイント**

参加者が自分の思いや意見を言いやすい雰囲気や仕組み作りが心がけましょう。

### ① まずは打ち解けよう

話し合いの場の最初の頃は、お互いが緊張していて、周囲の様子をうかがっているような状況が多いでしょう。そこで、始めから、固い議論に入るのではなく、参加者ができるだけ本音で話し合うことができるようにリラックスした雰囲気を作ることが必要です。例えば、皆で地域についての率直な思いを気軽に語り合うことも良いですし、会議室

ではなく公園でお菓子を食べながら気さくな雰囲気話し合いをしてみるのも良いでしょう。お互いの共通の話題などが見出せれば、打ち解けあうことができ、次の話し合いへとつながっていきます。

ここでは、最初の会合のときに、皆がリラックスするための手法として、「自己紹介法」を紹介します。(詳細は資料編 137 ページ)

### 自己紹介法(リラックスするために)

#### <使える状況>

最初の会合で参加者が緊張しているときに活用する方法です。

#### <効果>

参加者の緊張を解き、かつ、参加者がどのような人であるかを互いに知ることができるため、話しやすい雰囲気や安心感を作り出すことができます。

また、各参加者が自分について述べることで、自分が話し合いの場の主人公であると認識することができます。

#### <道具>

- ・ A4程度の大きさの用紙(人数分)
- ・ ペン(人数分)
- ・ 模造紙など(自己紹介用紙を貼り掲示するためのもの)

#### <プログラムの流れ>

- ・ 5~10分程度の時間で用紙に名前、居住歴、趣味、地域に対する思いなどを簡潔に書いてもらい、皆が見える位置に貼った模造紙に貼り付けていきます
- ・ その貼り付けた用紙の内容に基づいて、順番に発表をしてもらいます。
- ・ それを、皆が見える位置に貼った模造紙に貼り付けていきます。

## ② 意見を言わない人に対して

話し合いの場では、あまり発言をしない人がいます。このような人に対しては、「意見を言わない人は放っておけばよい」「意見を言わなかったのだから、後から文句を言う権利はない」など排他的な態度になってはいけません。どうして意見を言わないのかという理由を推察し、意見を言うことができるような対応や仕組みを考えましょう。

ここでは、意見を言わない人を四つのパターンに分け、そのパターンごとに対応策を提案します。

### 第1部

1章-1節  
まちづくりにかける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

### 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

## 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

## 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

### (ア) 意見を言うタイミングをつかめない人へ

一部の参加者の間だけで議論が白熱している、逆に、皆が発言をせずに黙っているような場合、なかなか自分の意見の言うタイミングやきっかけをつかめずに発言できない人がいます。このような場合、そのような人が意見を言えるような機会を作り出す必要があります。

ここでは、参加者全員が平等に意見を言うことができるための手法として、「ラウンド意見交換法」を紹介します。(詳細は資料編 140 ページ)

#### ラウンド意見交換法(全員が平等に意見を述べるために)

##### <使える状況>

活発な意見が出ないことが予想される時、又は特定の人ばかりが発言するだろうと考えられる場合に使います。

##### <効果>

全員の意見を聴くことができます。

発言をメモすることによって参加者は自分でも整理が付かなかった断片的な考えを整理することができ、また、他の人の意見をより正確に把握することができます。

##### <道具>

- ・付せん(人数×5枚程度)
- ・ペン(人数分)
- ・模造紙など(意見を記入した付せんを貼り掲示するためのもの)

##### <プログラムの流れ>

- ・司会進行役がテーマについて説明したあと、配布した付箋に自分の考えを書きます。
- ・記入の時間は10分程度取ります。
- ・1人1分以内程度の時間で、1回に一つの意見を付箋を見ながら順番に発言してもらいます。
- ・記録係は1枚の付せんの一つの意見を書き留めていきます。
- ・出す意見がなくなった人は「パス」といって次の人に回します。
- ・司会進行役は記録係が書き留めた付せんを受け取り、同じ様な意見をグルーピングして模造紙に貼り出します。
- ・司会進行役はグルーピングした意見ごとのキーワードを書き込み、全員の意見の傾向が分かるようにします。
- ・司会進行役は、グルーピングされた意見の中で一番多い項目から順に補足説明や質問、関連意見を促し、更に多くの意見を出し合うようにします。

(山路 清貴 著:「合意形成の技術」より)

### (イ) 皆の前で意見を言うのが苦手な人へ

大勢の人を前にしては、どうしても意見を述べられないという人がいます。しかし、そのような人でも、1対1や少人数であれば気楽に意見を言うことができるかもしれませんし、ご近所さんや仲良しさんになら率直な意見を言うことができるかもしれません。したがって、このような人には、意見を述べる方法を数種類準備し、その人にとって、最適な方法を自由に選択してもらえらるようにならせます。



## (ウ) 意見を言うことを恐がっている人へ

「私の意見なんてどうせ受け入れてもらえない」、「意見を言って反発されたらどうしよう」などと自分の意見に自信が持てずに、話し合いに参加できない人がいます。

このような人にも積極的に話し合いに参加し意見を述べてもらうためにも、どのような意見が出ても、攻撃的に迫及する、軽視する、非難する、無視するなどというような雰囲気にならないように留意しなければなりません。

特に、同じ意見の者同士が固まると、対立意見や少数意見に対して排他的な態度になりやすいので注意が必要です。また、仮に対立意見などが出てその場が紛糾したとしても、その険悪な雰囲気を議論終了後まで引きずることがないよう参加者全員が心がける必要があります。



### お役立ち情報BOX

#### 意見に自信を持ってもらうには

「自分の意見は特殊なのではないのか」、「自分の意見として、ぼんやりとしたものや断片的なものしか思い浮かばない」、「私の意見は無意味だと無視されるのではないか」などと心配し、なかなか自分の意見を表明できない人や積極的に議論に参加できない人に自信を持ってもらうにはどうしたら良いでしょうか。

一つの方法として、広報紙などで多くの住民の意見をお知らせするということが挙げられます。多くの意見を把握することで、自分の意見を明確に再認識してもらえる、あるいは、住民全体の中での自分の意見の位置付けを把握してもらえるという効果があります。そうすれば、自分の意見に少しでも自信を持ってもらえるでしょう。

また、話し合いの場で特殊な意見が出たとしても、真摯に受け止め、今後のまちづくりに対してどのように反映させていくかということを発言者に伝えましょう。そのような対応により、発言者は自分の意見が無視されているのではないと実感し、自信を持って積極的に議論に加わっていくことが期待されます。

## (エ) 内容が理解できず話し合いに参加できない人へ

話し合いの内容がわからない、あるいは議論の展開についていけないがために、意見を述べられないという人もいます。

そのような人が、疎外感を感じず議論に参加してもらうためには、話し合いの内容を理解してもらうためのアフターフォローをすることが必要です。例えば、話し合いの前

### 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

### 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1

地域の課題に気づく

Step 2

まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3

みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4

まちの将来像を  
考えよう

Step 5

まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6

必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7

定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8

地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9

地区計画案の  
最終確認をしよう

## 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

## 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

後に、現状や経過についての丁寧な説明をすること、議論を途中で区切りそれまでの議論内容をまとめ確認してから次の議論に移ること、正確な議事録を公開すること、個別に質問を受け付けられるような組織体制を維持することに努めます。

また、説明資料などは、イラストやカラーを用いた視覚に訴えるような資料を使用するとより明解となり望ましいでしょう。

### (3) 意見を述べるときの注意点

ポイント

意見を述べるときは、はっきりと具体的に話し、また率直な思いを打ち明け合うように心がけましょう。

#### ① 具体的に語り合おう

まちづくりにおける話し合いにおいては、実際の地域のことを対象に意見が交わされます。したがって、あいまいな言い方はせずに、できるだけ現実に即した意見を述べることで議論を活性化させ意義あるものとしします。

具体的なイメージや状況を設定して、意見を述べ合うように心がけましょう。例えば、「潤いのあるまち」にしたいと言うときに、「まちで潤いを感じるのはどんなものか、どんなときか。それはどこにあってどうしてできたのか。他の人はそれをどう思っているのか」などと具体的にイメージを描きながら話し合いを進めていきます。

具体的なイメージを浮かべて、話し合いを行う手法として、「ロールプレシミュレーション」を紹介します。

(詳細は資料編 142～144 ページ)



## ロールプレシミュレーション(具体的な話し合いをするために)

### <使える状況>

主に公園や公共施設など、多くの人が使うものをつくるときに有効な手法です。

### <効果>

皆で利用するものをつくる以上、参加者本人の意見を計画作りに反映させる権利はありますが、あらゆる利用者の立場に立って計画作りをすることで、皆にとって利用しやすいものに近づくことができます。

### <道具>

- ・役を書いたプレイヤーカード(人数分)
- ・付せん(人数分の5倍程度)
- ・模造紙(利用についての意見を書いた付せんに貼り掲示するもの)

### <プログラムの流れ>

#### ・配役

子供、高齢者、障害者、学生、子供を持つお父さん・お母さんなど、今の自分の立場と違う役を引き受けます。

#### ・意見交換

自分の役が記されたプレイヤーカードを身につけ、その役になりきってどのように利用したいか考え、意見を言い、それを付せんに書き留め、模造紙に貼っていきます。

#### ・まとめ

あらゆる人が利用しやすいものはどのようなものかということをお互いに確認しながら、計画作りに生かせるようなまとめをしていきます。

## ② 率直な思いを伝えあおう

話し合いの場において意見を述べるときには、対立を避けるためや自分の意見を通すために、隠し事をしてしまう、あいまいな言い方をしてしまうなどということがありません。何かを隠している態度やあいまいな言い方は相手に不信感を与えます。また、勘違いなどを招き、後のトラブルを誘発する恐れもあります。

ですから、自分が知っていることや思っていることは何でも率直に話すようにしましょう。自分が遠慮して、あるいは恐くて言えない「本音」は、意外にも他の人たちも抱いて

### 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

### 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

## 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

## 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認しよう

いるかもしれません。「～というのは確かに正論だと思う。だけど、本当は～という気持ちもあるんだよね」などと率直な思いを言い合うように各人が心がければ、話し合い全体において本音を言いやすい雰囲気が徐々に醸成されていくはずですよ。

## (4) 進行役の心構え

ポイント

進行役は、参加者が「自分が議論に加わっている」という安心感や充足感を持つことができるような気配りをしましょう。

### ① 安心と満足を得てもらおう

積極的な意見交換がなされ有意義な議論が展開するためには、まずは参加者自身に、議論に参加する意義を感じてもらうことが重要です。

そこで、議論の進行役には、参加者が「自分の述べた意見がわかっている」という安心感や、「自分が議論に参加している、役立っている」という充足感を得られるように議論を進めることが求められます。

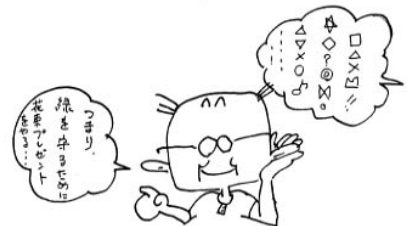
そのために進行役が心がけるべき3点のポイントを以下に示します。

### (ア) ‘聴いていますよ’のアピール

意見を聞きながらうなずく、意見の内容を復唱することで、相手は自分の意見をきちんと聴いてもらっているという満足感を得ることができます。また、それと同時に、そのような態度を見せることで、他の参加者も他人の意見を聴くことの重要性を認識するという効果も期待できます。

### (イ) ‘言い換え’による意見の明確化

内容にとりとめがない、話し方がわかりにくいなどという理由から、他の参加者がその主旨の理解に悩む意見が挙げられる場合があります。しかし、何を言っているのかよく分からないということで、その意見を軽視して議論を進めると、意見を述べた人には不満が残ります。



お互いの間にしこりを残すことにもなります。

その人が言いたかったことをまとめて言い直し、その内容で間違いがないかについて相手に確かめる‘言い換え’作業を行うことに努めましょう。これにより、発言者は満足し、また自分の意見を再認識することができます。さらに、他の参加者もその意見の内容を的確に把握することができます。

## (ウ)‘まとめる’ことで次のステップへ

上記の2点に心がけながら意見を聞いた後は、その意見を集約し、話し合いの結果をまとめることが必要になります。結果をまとめるということは、必ずしも一つの意見にまとめるということではなく、話し合いを通してどのような事実がわかったのか、今後の課題は何であるのかということを確認し、次の話し合いへのステップを構築することです。また、まとめることは、参加者に議論に対する充実感、達成感をもたらします。

## ② 皆の表情を見回そう

進行役は、参加者全員が話し合いに参加している状況や話し合いの場に意義を感じている状況を維持するように配慮しなければいけません。

「内容を理解できず議論についていけない人がいないか」、「発言のタイミングをうかがっている人がいないか」、「攻

コラム

### 独壇場を作らない

話し合いの場面では、声の大きい人がずっと話していて、他の人が圧倒されてしまい何も発言できないというケースが頻繁に見受けられます。

しかし、話し合いの場がこのような独壇場の状況になってしまうと、声の大きい人は孤立してしまい、一方で、他の参加者は自分の意見を言えず不満が募るという結果となってしまいます。

話し合いの場が独壇場になってきてしまったら、進行役は一度その流れを中断しなければいけません。ただし、声の大きい人の立場やプライドを損ねないように留意する必要があります。

例えば、「あなたの意見は～ということですね。その気持ちは確かにわかります。ただ、他の皆さんがどのようにお考えか聞いてみてから、もう一度考えてみましょう」などというように、声の大きい人の主張を否定するのではなく、次の議論へと結びつけることを約束するような切り回しをすることが効果的です。

### 第1部

1章-1節  
まちづくりにかける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

### 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

## 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

## 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴く

Step 4  
まちの将来像を  
考える

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考える

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

攻撃的な雰囲気になっている人がいないか、「皆がリラックスしているか」などという視点で、参加者の表情を見回し、参加者が話し合いの場のあり方に不満や迷いを抱いていないかを確認するようにしましょう。そして、不満や迷いの表情を浮かべている人がいれば、その不満を解消するような対応策を講じる必要があります。

例えば、発言のタイミングをうかがっている人がいれば、指名などにより発言の機会を提供する、攻撃的な言い方になっている人がいれば、休憩を入れる、お茶を出す等ということをして気分を落ち着けてもらうなどというような対応が求められます。

## (5) 意見の裏をのぞいてみよう

ポイント

意見に対しては、その背後にあるものを解明するために、「どうして?」「どこが?」と深く分析していきましょう。

話し合いの場では、人の意見を表面的にとらえて、その是非を判断するというような場面が見受けられます。しかし、合意形成のための話し合いは、単に意見を収集するためや、その意見の是非を判断するために行なうものではありません。

### 事例紹介

#### 森と非行の問題が同時に解決!

ある地域に、うっそうとした小さな森がありました。この周辺は、もともと人通りも少なく、夜になると、痴漢などが出るのではないかと心配する声が挙げられていました。その中で、木を伐採してゲートボール場にでもすれば、明るく見通しも良くなるのではという意見がありました。

その一方で、子供の非行に対して地域でどのように対策をしていくかということに悩んでいる人もいました。

両者の意見は、全く共通点のない別問題であると始めは考えられていましたが、よく話し合っていくうちに、今の森には立ち寄って自然と親しもうと思える魅力がないのが問題なのだという意見と、一方で、子供が非行に走るの、何か夢中になって取り組む対象や体験が地域の中になからという意見が出されました。

このような十分な意見交換がなされた後、森で子供たちの自然観察会を開催し、子供たちの手作りの木の銘板を町内会の人たちと一緒に取り付けることをしてみようということになり、双方が納得できるような森の活用方法を見出すことができました。



## 事例紹介

### 対立意見者を引き寄せる工夫

ある地域に池がありました。釣り場所や遊び場になっている一方、ごみが捨てられる、池に落ちては危ないなどの問題を町内会では感じていました。ゆくゆくは池を埋めて、グラウンドに整備して欲しいという要望も行政に出していました。

ところが、この池には、豊かな生物環境があり、自然観察の場としては都市の中の貴重な空間でもあったわけです。市民活動団体も熱心にその保護を訴えていました。

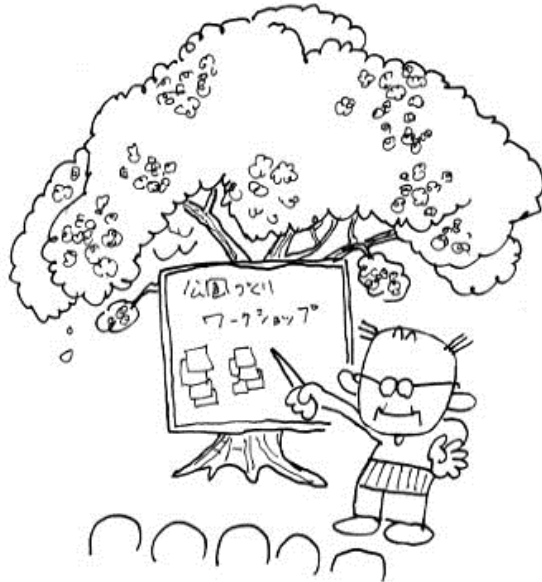
地域の住民にとっては、市民活動団体の人たちは、他地域の人、どういう人たちか得体もしれない。市民活動団体の人たちは、地域の住民がなぜこのような都市の中の貴重な空間を認めないのかが分からない。

市民活動団体の人たちも、このような状況では、まず話し合いは決裂し物別れになってしまうだろうと考え、知恵を出し始めました。地域の人にも呼びかけ、まずは池周辺の掃除からはじめました。地域の人が清掃も大変と言っていたからです。掃除をした後、自然観察を行い、それをニュースの形にして地域の人たちへ季節便りとしてお知らせしています。

次第に地域の住民の参加も増え、時には楽しいイベントなども行います。地元の方に歴史を聞いて、昔懐かしいドンド焼きも復活させました。

現在は、行政から池を活かした自然型の公園づくりの話が持ち上り、お掃除をし、桜の花見で各自持ち寄ったおいしいものを食べながら、どんな公園にしようかという野外ワークショップを行うなど、楽しい雰囲気でも合意形成が進められています。

「清掃をすれば皆も喜ぶのでは」と、対立関係にある人達も一緒に活動に取り組むことができる工夫を凝らしたことが、功を奏したと言えるでしょう。



意見の表層だけを捉えるのではなく、「どうして、その意見を言うのか」、「どこが問題なのか」というような分析を進め、意見の裏にある事情や気持ちなどを引き出すことに努めることが必要です。何を問題と感じているのか、何を求めているのかという意見の深層を解明していく姿勢を持つように心がけましょう。

## 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

## 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1

地域の課題に気づく

Step 2

まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3

みんながまちをどう  
思っているか聴く

Step 4

まちの将来像を  
考えよう

Step 5

まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6

必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7

定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8

地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9

地区計画案の  
最終確認をしよう

## 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

特に反対意見者や少数意見者に対しては、排他的にならないように留意し、解決の糸口を見つけるために、共に意見を分析していくようにしましょう。

最初は、全く違うと思われた問題であっても、深く分析していくことにより、根底にある課題は共通であることが判明し、同じ一つの解決策で対処できるという結果になるかもしれない。

## 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴こう

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう



## (6) 意見をまとめるために

### ポイント

意見をまとめるには、皆が納得できる要素を持ち合わせたものを作るために創意工夫することが必要です。

意見をまとめることとは、皆が納得できるものを見出すことです。皆が納得できるものとは、単なる折衷案ではありません。第2章第1節に示すように、真に納得できるものとは、各人が納得できるための要素が結集されたものです。

つまり、意見をまとめることとは、各人が納得できる要素を見出し、その各々の要素が共存できるものを作り出すことです。そこで、創意工夫が求められます。

例えば、相手の立場に立ち、相手がどのような気持ちなのか、何を欲しているのか、どうすれば納得するのかということを考えることや、実際にシミュレーションなどを行い納得できるものであるかどうかを確かめてみることも創意工夫の一つと言えるでしょう。

### 事例紹介

#### 空き缶回収のアイデア

ある商店街では、夏枯れ対策として、当時社会的意識も高かった環境をテーマとしたイベントを企画しました。

このイベントで導入された空き缶・ペットボトル回収機が大好評を得ました。この回収機には、空き缶やペットボトルを入れるとゲームを楽しむことができるという特徴がありました。

商店街はこの回収機が評判を得たことから、空き店舗に、このゲーム付き回収機を常設しました。ゲームによる景品は、商店街のサービス券でした。‘ゲームと景品’という‘面白さと期待感’で、回収機は多くの人に利用され、その結果、街中から空き缶やペットボトルが消えました。

この回収機の導入により、「住民は、ゲームくじを楽しめ、かつサービス券を取得でき、得をする」、「商店街は、ゴミが減少し綺麗になる、また、サービス券の使用に伴い他の買い物もしてもらえ、商売が繁盛する」と、住民と商店街の双方が満足を得ています。

通常、商店街の人が、周辺の住民の人達に単に空き缶回収を呼びかけても、面倒臭いとなかなか思い腰を挙げてもらえないことが多いでしょう。また、商店街が自分達だけで空き缶回収に努めても、その労力や費用は小さくはありません。

空き缶回収というそのような課題が想定される中で、この商店街の場合は、空き缶回収に「ゲームを付ける」というアイデアが、両者のニーズが共存できる状態を生み出したと言えるでしょう。

## 第1部

1章-1節  
まちづくりにおける  
合意形成の意義

1章-2節  
まちづくりの進め方

2章-1節  
合意形成の  
心構え

2章-2節  
合意形成を  
進めるために

## 第2部

1章  
地区計画とは

2章  
地区計画の  
合意形成の流れ

ステージ1  
活動の準備をする

Step 1  
地域の課題に気づく

Step 2  
まちづくり組織をつくる

まちづくりの  
進め方

ステージ2  
まちづくりを考える

Step 3  
みんながまちをどう  
思っているか聴く

Step 4  
まちの将来像を  
考えよう

Step 5  
まちの将来像を  
共有し実行しよう

ステージ3  
ルールづくりを考える

Step 6  
必要なルールの項目  
や内容を考えよう

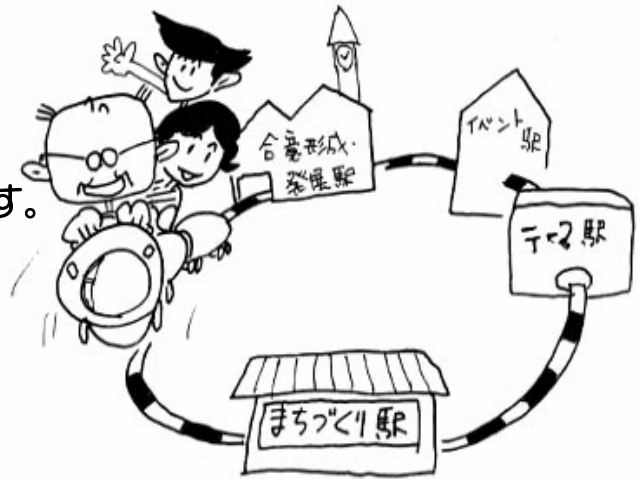
Step 7  
定めるルールの  
種類を検討しよう

Step 8  
地区計画としての  
内容を検討しよう

Step 9  
地区計画案の  
最終確認をしよう

# — まちづくりは持続する —

まちづくりに終点はありません。  
まちは常に成長しているからです。  
その成長に合わせて  
まちづくり活動も  
成長させていきます。



ある「まちへの思い」から始まったまちづくり活動が、地域全体に広がり地域に根ざしたまちづくりへと発展していくことを念頭に合意形成のポイントを述べてきました。

地域への地道な働きかけや地域の地縁組織との連携などを通して、多くの住民との合意形成を経たまちづくり活動は、まちづくり委員会などの地域組織が設立される、地域のルールとして決められるなど様々な姿で実を結びます。

まちづくりに終点はありません。なぜなら、地域には様々な人々が生活していて、その生活の変容とともにまちも変化しているからです。したがって、まちの成長に合わせてまちづくり活動の内容も変化させていくこと、また、新たなテーマを見つけて活動を展開させていくことが求められます。それによりまちづくりの意義が深まります。

第2部では、地域における多種多様なまちづくり活動のうち、良好な街並みの形成や住環境の維持・保全のために建築物の制限を決める「地域発意型地区計画」を採り上げています。

地区計画は、法律に基づくものであり、私有財産や私権を制限するという地域住民への影響力が強いものなので、慎重に取り組まなければいけません。そこで、地区計画という地域のルールづくりを円滑に進めるための住民合意形成のガイドラインを示しています。